

北極大陸

ARCTIC CONTINENT

2015.JUN

無料
FREE

不死の宴
栗林元

わが手は翼 われは鳥
弾射音

機械恐竜現る! の作り方
murbo

不死の宴

栗林元 Kuribayashi Hajime

「さんけん前」のバス停は
湖岸道を集落の側に少し登ったところにあった。
朝の光の中、バスはゆっくりと
諷訪湖畔を走ってきた。
原油の輸入が止まるかもしれないという
非常時である。

続きを読む

(二) 常闇の系譜



機械恐竜現る!の作り方

第7回
アイアンザウルス
ヴァルゼルヴァ

続きを読む

murbo

わが手は翼
われは鳥

ひどく長い
四十五分がやつと
おわると、信也より
さきに哲郎のほうから
近づいてきた。
哲郎はだまつたまま
信也のひじをつかんで廊下へ
ひっぱつていった。
「こんどはおまえの番だぜ」

続きを読む



薔薇の刺青
栗林元
発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



パッチワールド
弾射音
発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>

ひどく長い四十五分がやつとおわると、信也よりさきに哲郎のほうから近づいてきた。哲郎はだまつたまま信也のひじをつかんで廊下へひっぱつていった。

「こんどはおまえの番だぜ」

哲郎はにやにや笑いながら信也の顔と足をとを交互に見た。信也はどきどきしてくちびるをなめながら身がええた。全身に力がこもつてかちかちになつた。

だが、そこで大事なことを思い出した。

「きょうから給食当番なんだよ」

哲郎は笑うのをやめて少しうつとした。
「すくすくむさ。やつてみなよ。給食はそれから取りにいきやいいんだよ」

「だつて……」

信也はためらいながら教室の窓をふりかえつた。ほかの当番の子たちはもう白い三角巾とエプロンをつけはじめている。

「かまわないよ。やれってば！」

哲郎は信也の背中を平手で力いっぱいやしつけた。思わず前へよろけながら信也が見上げると、哲郎は目をつり上げて信也をにらみつけていた。

「わ、わかつたよ」

信也は足踏みをはじめた。最初はしぶしぶだったが、そのうちに夢中になり、全身の力が二本の脚に集中し、ひざが高く上がり、スピードが上がつた。

「もつと早く！」

哲郎が叫んだ。信也はさらにスピードを上げた。両脚が痛くなり、ひたいから汗がふき出した。気のせいいか床が少しやわらかく感じられるようになる。ふと足もとに目を落とした。

「その裏がかすかに床からはなれていた。

「その調子その調子！」

哲郎が手を打つてはやしたてた。信也はさらにスピードを上げた。もう限界に近い。足は床からどんどんはなれ、からだがゆつくりと浮かび上がつていた。

「空氣の上に寝るんだよ、はやく！」

信也は足踏みをやめ、とっさに両腕を前へ投げ出して前方の空氣をかき分けた。ふらつきながら少しうつたが、あやういところで空中に腹ばいになれた。床からわずか三十分の高さだ。

「すぐに手で空氣をかかなかぎや！」

哲郎のいうままに、信也は両腕をまっすぐに伸ばして前方の空氣をかき分けた。ふらつきながら少し前進する。からだがとても不安定でひどくおつかなかつた。

「すぐさま腰をかかなかぎや！」

信也は足踏みをやめ、とっさに両腕を前へ投げ出して前方の空氣をかき分けた。ふらつきながら少し前進する。からだがとても不安定でひどくおつかなかつた。

「斜め上にかけよ」

信也は死にものぐるいでからだを反らし、上のほうへ両腕をまわした。

「少しすつだが、上昇していく。」

やっているうちに、スマーズに前へ出られるようになり、高さもゆつくりと上がつていった。

「やがて、頭と背中がほとんど天井に届きそうになら。スピードも上がって、ゆつくり走っているのと同じくらいになる。そうなるとあとはかんたんだった。すつかりうれしくなつて、信也はときどき天井に手をふれながら、廊下をどんどん進んでいった。

うしろで同じクラスの女の子が自分を呼んだよう気がしたが、信也はぶり返らなかつた。スピードを落とさずに角を曲がる。

きゆうに先生があらわれた。

ぶつかりそうになり、あわててよけた拍子にバランスを失い、信也は床へいきに落ちて、お尻をしたたか打ちつけた。

「こらー廊下を走っちゃいかん！ぶつかつたらどうするんだ」

顔をしかめて尻をさすつてはいる信也を、先生がす

ごい顔をしてにらみおろしていた。

「ご、ごめんなさい」

「なんだ、きょうから給食当番じゃないか。それな

のに遊びまわっていたのか」

「いい、いま行きます！」

落ちまいとして必死に空氣をかく。やりかたがまづいのか、少ししか前に進まない上、どんどん下へさがつていく。

「もつとなめらかにやるんだよ。ドジだなあ」

そんなことを言われても、無我夢中だからちつともならない。腹が廊下の床につきそうになり、信也はあわててひつこめた。

「斜め上にかけよ」

信也は死にものぐるいでからだを反らし、上のほうへ両腕をまわした。

「少しすつだが、上昇していく。」

やっているうちに、スマーズに前へ出られるようになり、高さもゆつくりと上がつていった。

「やがて、頭と背中がほとんど天井に届きそうになら。スピードも上がって、ゆつくり走っているのと同じくらいになる。そうなるとあとはかんたんだった。すつかりうれしくなつて、信也はときどき天井に手をふれながら、廊下をどんどん進んでいった。

うしろで同じクラスの女の子が自分を呼んだよう気がしたが、信也はぶり返らなかつた。スピードを落とさずに角を曲がる。

きゆうに先生があらわれた。

ぶつかりそうになり、あわててよけた拍子にバランスを失い、信也は床へいきに落ちて、お尻をしたたか打ちつけた。

「こらー廊下を走っちゃいかん！ぶつかつたらどうするんだ」

顔をしかめて尻をさすつてはいる信也を、先生がす

信也はあわてて立ち上がり、いちもくさんに教室へかけもどった。

走りながら、信也はふと気がついた。

先生にはぼくが空を飛んでいたのが見えなかつたのだろうか。

それにしても、走るのがこんなにもどかしいもの

だけは知らなかつたと、信也は思つた。

教室の前で、はとど立ち止まる。

みんな、きゅうに消えてなくなつたみたいだ。

校庭からざわめきがただよつてきた。

信也は窓にかけよつた。

青空のカンバスの上を、哲郎が鳥のように優雅に舞つていた。

哲郎は信也に気づき、ニヤッと笑つて手まねきし

た。

信也は窓わくをまたいで外へ出た。

校庭には生徒たちがあふれていた。

ひとりのこらすけんめいに足踏みをしていた。み

んな、クツをはいておらず、はだしだつた。

信也は上から叫んだ。

「もつと強く！」

何百人の生徒たちの足音がいっせいに大きく

なつた。地面がゆれはじめた。

哲郎がふたたび信也のほうを向き、からだをひねつ

て一回転した。

「来いよ」

信也は夢中で足踏みをはじめた。

「なつたらもう足踏みなんかしくともいいんだよ。思いつきり飛び上がつてみなよ」

信也は彼を見上げて足踏みをやめ、一瞬ためらつた。

「なにしてんだよ。ほら！」

哲郎は両手をぶり上げてうながした。

信也はからだを深く屈伸させて力いっぱいジャンブした。

からだがそのまま宙に浮いた。

哲郎は拍手をして、からだをそらしながらさらに

上昇し、一回転した。

信也は両腕でひつしに空気をかいて、哲郎のところへたどりつこうとした。

しかし、地面から五メートルぐらいのところまでが限界だつた。それ以上はどうしてもだめだつた。

下を見ると、もう生徒たちの半数近くが浮かび上がりはじめている。男の子も、女の子も、きやつきやつ

と声を上げながら、ゆっくりと、あぶなつかしげに上がつてくる。

「みんな、やめなさい！」

メガネをかけた女の先生が上へ向かつて叫んだ。

男の先生たちが生徒たちのあいだをぬつて走りま

わつて、足踏みをやめさせたり、やつと浮かび上がりはじめた子をひきすりおろしたりしはじめた。

信也は上を向いて叫んだ。

「そこまで行けないよ！」

哲郎が叫び返した。

「下りてきてよ！」

「だめだ！ もうもどれないんだよ！」

哲郎は、上空にとどまつて信也を見まつた。

信也は空中で足をけり、でたらめに両腕をふりまわしてけんめいに上昇しようとした。

だがやはりだめだつた。

あきらめたのか、哲郎は信也を見おろすのをやめ

て、上昇はじめた。

ワガテハツバサワレハトリ
ワガテハツバサワレハトリ
ワガテハツバサワレハトリ

「だめだよ！」

信也は泣きそつになつてふたたび叫んだ。

「もっとなんべんもとなれるんだよ！」

哲郎の顔はしんけんで、目が血ばしつていた。

「心をこめて、なんべんも、なんべんも、うまくいくまでとなれるんだよ！」

信也はもう一度やつてみた。

でもやつぱりだめだつた。信也の目はうるみはじめた。

「だめだよ！ どうしてもできないよ！」

「やるんだ！」

哲郎の叫びは泣き声に変わつた。目からはもう涙がこぼれている。

「いまやらないと、一度とできなくなるぞ！」

信也も泣いた。

「下りてきてよ！」

「だめだ！ もうもどれないんだよ！」

哲郎は、上空にとどまつて信也を見まつた。

信也は空中で足をけり、でたらめに両腕をふりまわしてけんめいに上昇しようとした。

だがやはりだめだつた。

あきらめたのか、哲郎は信也を見おろすのをやめ

て、上昇はじめた。

わが手は鳥
われは鳥

続く

不死の宴 第五回 序(二) 常闇の系譜

前回までのあらわし

日利一八九六年九月 現在の石川町の九月一日に附の
招聘で「三号」と呼ばれる極秘計画に加わるために長崎
野県上諏訪町を訪れた。出迎えたのは登戸研究所所長諏訪
分室の守矢竜之介少尉である。如月を宿に送った、そ
の直後、分室では研究の被験者であつた近藤上等兵が大
蘇生とともに黙化し人狼となつていた。竜之介は近藤
を殺したが、近藤に神降ろしをした姫巫女・美沙は眷
属を失つた痛みを感じるのであつた。

原油の輸入が止まるかもしれないという非常時である。諏訪乗合バスも木炭エンジンで後部に大きな釜を積んでいる。ゆっくりとしか走れないのだ。実質十馬力強のエンジンで、緩やかな坂でもバスは青息吐息で今にも止まりそうだった。

昨日、湖月荘の主人に「さんけん」とは地名なのかなと聞くと、昭和の初めまで「蚕業研究所」つまり蚕研があつた場所なので「さんけん前」なのだと教えてくれた。そのバス停まで、木炭バスはのろのろと登つていき、如月を降ろすと同時に、ついに使命を果たし終えたと

如月が一人しかいなかつたので、車掌は苦笑いをして、肩をすくめると、運転士に一声かけて火かき棒を握掴みとバスの後部の釜に向かつた。木炭をならして熱を均等にするわけである。

バスの燃料すら木炭に転てているようでは、この戦争はどうなるのだろうかと思つた。バスを押して坂を登らずにすんだだけ幸運だったかもしれない。

調査会室に、その蚕業研究所を併設した紡績工場の施設を接収したものだと聞いていた。バス停からさらに登り道になつていて、諏訪湖は降雨時にはしばしば水

位があがつて氾濫したそうで、昭和七年にも大きな水害があつたという。現在は釜口水門ができるて天童川にうまく水を流せるようになつたので、以前ほど氾濫する事はなくなつたと宿の主人は言つていた。

拭つた。明日からは、研究所の申し出に甘えて迎えにきてもらおうかと思つた。

陸軍第九研究所諭訪分室は赤煉瓦の塀に囲まれていた。門も同様の赤煉瓦で、明治の日本を支えた紡績業の歴史を感じさせる。そのすぐ内側にコンクリートの

白さまもまぶしい真新しい門柱が作られていた。
門柱と一体化した守衛所がまるでトーチカのような物々しさで訪問者ににらみを利かせて
いる。

守衛所の窓口には陸軍の制服を着た兵がいた。如月は腕に持った上着の内ポケットから許可証を取り出し兵に示した。昨日、守矢童之介少尉から渡されたものだつた。

兵はそう言うと、守衛所の奥に「先生が見えたよ」と大きく声をかけ、「ご案内させますのでお待ちください」と言つた。
裏でドアが聞く音がし、軽快な足音がすると、守衛所を回つて軍服を着た娘が現れた。

「先生、ご案内します」と言うと、ピットと体を反らして気をつけをし、「研究所職員の守矢みどりです」と叫ぶような元気の良さで腰から体を前に折つてお辞儀をした。

髪は開戦前の少年の様に短く切っている。はつきりした顔立ちの中できな隕がくるくるとよく動き何とも活発な印象だ。よく見ると軍服ではなく、男子学生が着るのと同じ国民服を着ている。ただ、腰をベルトでできりと締めていて、足下は布のゲートル（脚絆）ではなく乗馬用の長靴を履いていた。それだけで、この娘だとずいぶん洒脱な印象だ。

如月一心です」と自己紹介をして、「みどりさん、守矢というお名前だと、一

「はい、少尉の妹です、でも軍人ではありません、つて当然か、女だし」と言うと、大きく口を開けて男の子のよ

栗林元 Kuribayashi Hajime

うに、はははっ、と笑った。

如月も思わずつられて笑い出す。そして、すっかりこの娘が好きになっていることに気づいた。

みどりは如月の視線に気づくと、頬を押さえて少し照れくさそうに自線をはずし、姿勢を正すと「こちらです」と言つて歩き出した。

みどりは、黙つて如月の前をどんどんと歩いていく。よく鍛えられた体で、服を通してその動きに運動神経の良さが見てとれた。

ロータリーになつた車寄せの正面玄関を入つた。

「こちらが本館棟。管理部門がこちらの建物です」

吹き抜けになつた玄関ホールは三階まで吹き抜けになつていて、その中央に大きな階段があつた。みどりはその階段を上つていく。凝つた意匠の階段で、外國映画の中で洋装の貴婦人が舞踏会に行くために降りてくるような階段であつた。明治の日本を牽引した蚕業の財力を示す建物である。

二階の廊下を歩いていき、大きな木の扉の前に来る

と、みどりは「こちらです」と言つて扉を開け如月を招き入れた。

部屋は会議室だつた。正面の壁に映写用の白いスクリーンが下がつていて、中央にはスクリーンに向かつて十六ミリの映写機がセットされていた。その映写機の左右に椅子が四つ用意されていた。

「先生をお連れしました」とみどりが言つた先に守矢童之介と守矢公彦、もう一人、四十代後半と思しき軍人がいた。軍人には珍しく、おじおどこと氣の弱そうな男である。

男は、「所長の菅原です」と名乗つた。如月が頭を下げるすると、菅原は、大東亜共栄圏から欧米の白人支配を排除する聖戦遂行のためにも日本は負けるわけにはいきません。ついては民間人の如月先生にもその学識と研究でご協力を願いしたい、と言う内容をむにやむにやと言つた。

普段は、上諏訪町の駐屯地にいて週に一回だけ、この

研究所に顔を出すのだという。そして、今日も長居は

できないので戻りますと言つた。そそくさと席を立ち、「如月さん、よろしくお願ひしますよ」と軽く敬礼をすると、如月と守矢に目を合わせようともせぬ部屋を出ていった。

睡然として見送つた如月とは対照的に、童之介はうすら笑いを浮かべながら、菅原さんのお気持ちもわからんでもないですよ、と言つた。どうやらいつものことらしいどうかがえた。そして、如月を正面から見据えると、「ミニ計画についてご説明いたします」と言つた。

公彦は会議室のカーテンを開め火りを消すと映写機の後ろに座つた。童之介はスクリーンわきに立つた。

カタカタと映写機が回り、スクリーンには「三、二、一」と数字が映つた。まず現れたのは、体育館らしき建物の中だつた。画面の中央に白い体操着の人物が映つていた。顔には剣道の面に似た防具をつけ、両手には拳闘のグローブに似た籠手を着けていた。

「ミシャゲチの力を得た人間の身体能力を記録した映画です」と童之介が言つた。

不死の宴 続く



機械娘で現る! の作り方

第7回 アイアンザウルス・ヴァルゼルヴァ

murbo

【アイアンザウルス】

科学宇宙研究所の博物館の恐竜の化石をアイアンモンスター化した。強固な防御力と粘りのある馬力で、周囲を破壊する。

1G下では重装甲が炎して瞬発力に欠ける。恐

竜の化石を基にしているために肉にあたる部分が少なく、見かけ上の重量感は少ない。武装は両腕のアイアンクローラーと口のヘビーメガキャノン、重光波電砲、尻尾のレーザーマシンガン、尻尾の光波粒子機関砲。

日本の科学宇宙研究所

の博物館以外の化石の存在する場所でもアイアンザウルスは発生し、その元になった化石の状態により形態は異なる。

このオレンジ色の個体は骨格は多くは揃っていたものの、粉かな傷や欠損があり、それがアイアンモンスターとして形成された時に表面の塗装の破損として表現された。また地球上では埃や塵なども自然に存在するために完全な状態でアイアンモンスター化されることはある。





【アイアンナックル】

破壊専用。対象を殴りつけることで破壊する。親指に相当する部分も利用して物体を掴み、引きちぎる事も可能。

動物の歯に相当する部分は重光波電磁砲を保護するとともに、噛み付く武器になる。



【レーザーマシンガン】

尻尾に相当する部分の終端に装備する破壊光線砲。

独立した専用ジェネレーターから高密度発光粒子をパルス状に発射する。照準については視覚と連動せず、視覚とは別のシステムで運用される。



【重光波電磁砲】

動物の口に相当する部分に装備する破壊光線砲。

体内のアイアンコアからの高圧マイクロ波を圧縮し、目標に発射する。マイクロ波を圧縮し発射までのタイムラグが弱点。発射時は体内のアイアンコアも発光する。直進性が強く、接触したものを叩き割るように破壊する。これが当たった結果として爆発することなく、爆発する条件があった場合に爆発する。

■スペック

全長／ 18m

体重／ 11.6t

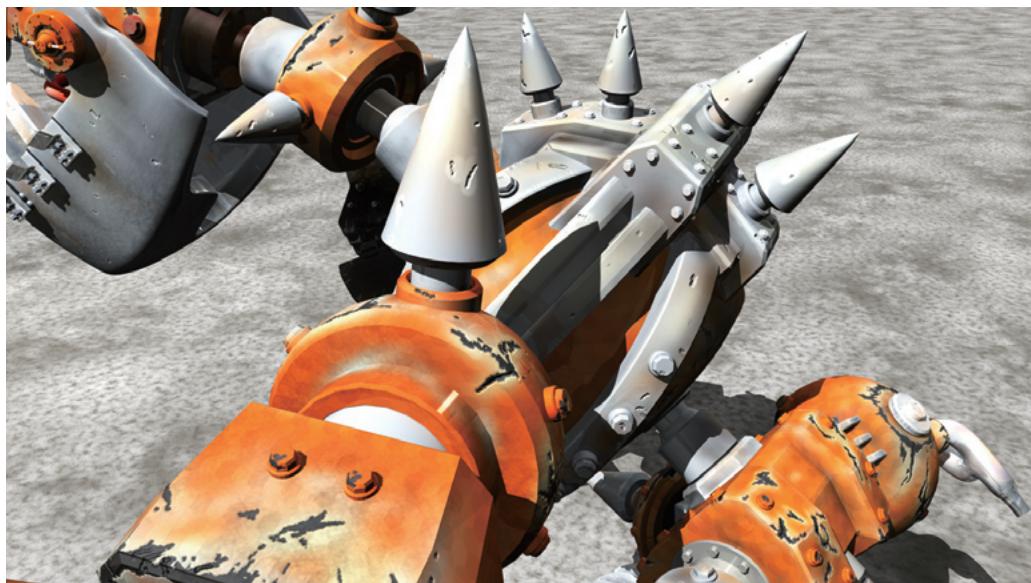
武装／ アイアンナックル x2

ヘビーメーザーキャノン

重光波電磁砲 x1

レーザーマシンガン

光波粒子機関砲 x1



弾射音既刊本

パッチワールド

人格シミュレーションとなった村田は独自の理論を実証するため、恒星間宇宙船を乗つ取りヒアデス星団で実験を再開する。地球を破壊した謎の結晶体による地球再生の可能性を突き止める。……クリス・ボイスの名作『キャッチワールド』へのオマージュ。第一回SF新人賞候補作を加筆。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>



クラフトロン 弾射音短編集 SF編

「クラフトロン」…夫のテリーは旅先の地球で他の観光客もろとも消息を絶ち、私は軍人として搜索を命じられる。変異に地球は飲み込まれ、私はついにテリーの真実を知る……。他三篇。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MP4I8JE>



今度、死ぬことになった 弾射音短編集 ミステリ編

「今度、死ぬことになった」…私は大学時代の友人から、「今度、死ぬことになった」という文面の手紙を受け取る。そして死んだ。彼は恨みを持つ女のマンションに爆弾を仕掛けたと遺言を残す。……他二篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MOZXM22>



理由なき朝食 弾射音ショートショート集 Vol.1

夜中の三時、ママはぼくをいきなり起こす。真顔で朝食を食べなさいと言うのだ。パパとお姉ちゃんはパニックだ。そのうちに、みんなは泣きながら真夜中の朝食を始める……他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MUQJGT8>



ばおにゃん？ 弾射音ショートショート集 Vol.2

暇だったので、象と猫のハイブリッドを作ってしまった。巨大な象猫は元気に「ばおにゃん！」と鳴く。妻は今すぐ捨ててきなさいと言う。ぼくはいったいどうしたらいいのだろう？……他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MW4ZC78>



デイズ・オヴ・ホミサイド

殺人が犯罪ではない近未来。簡単に殺し合う人々。加藤芳雄はある日、吉田美枝子を地下鉄内で殺す。政府のコンピューター内に蘇った吉田美枝子は、逆に芳雄を殺そうと反撃に打って出る。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKDQSLA>



彼女の手の中のバービー

彼女はいきなり僕の顔に化粧をした。僕は彼女の手で、どんどん女になっていく——美人女子大生と女装少年の、奇妙な愛のかたち。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00GWY6ISQ>



レイルウェイ、ターミナル、そして故郷へ

僕は棺桶職人。ある日、大変なことに気づいてしまう。いどうるが手許にないのだ。人は、いどうるなしでは人は生きていけない。僕は、いどうるを取り戻すため、故郷へ向かって旅を始める。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKCJPR0>



栗林元既刊本

薔薇の刺青（タトゥー）／自転車の夏

日本人と結婚して永住権を手にしたマリアンは、どこへ消えたのか。昭和六十年の名古屋市を舞台に、外人タレントプロダクション、偽装結婚、など、裏社会を描いたハードボイルド作品。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



神様の立候補／ヒーローで行こう！

西本は広告会社の営業。彼に下された使命は、新聞用選挙広告を法定回数五回分を全て東海新聞の扱いで獲得すること。ところがその候補者は、「龍神様のお告げで立候補を決意した」というおばあちゃんだったのだ。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00IB9F4OE>



1988 獣の歌／他 1 編

気がつくと、「獣」は新生児の心の中にいた。今まさに殺されようという瞬間だった。間一髪、肉体から抜け出した獣は、少女の心に飛び込んでいた。しかし無理な跳躍で、多くの記憶を喪失してしまう。他 1 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00KK5I61U>



盂蘭盆会〇〇〇参り（うらばんえふせじまいり）他 2 編

18歳を前にした仁は「明日のお参りにはお前も来なさい」と、父から告げられる。話によれば長男は兄弟の中でも比較的早く「お参り」に連れていかれるのだという。果たしてそのお参りとはどのようなものなのか。他 2 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00NCD05MK>



murbo 既刊本

宇宙キッド 怪獣図鑑 魔人ゴース編

架空の連続 TV アニメーションである、宇宙キッドに登場する敵怪獣などをカード風のレイアウトで紹介する図鑑。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00EM4ST80>



宇宙キッド 怪獣図鑑 ドーモル団編

架空の TV アニメ、宇宙キッドに登場する敵怪獣のカード風のデザインで紹介する図鑑。第二巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00F0CFGVQ>



戦え！宇宙キッド 怪獣図鑑 超電子頭脳ズレイノウン編

架空の TV アニメ、宇宙キッドの敵メカ怪獣をカード風に紹介した図鑑。第三巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00HRW3ELG>



一枚 55mm x 55mm。
一回料金 1,000 円
年契約 10,000 円
240dpi 以上の解像度、
cmyk モードの
psd フォーマットのみ受付け
ています。
詳細と受付は
denpub@1001sec.com へ。



2015 年 6 月 1 日 編集発行／電子パブ
<https://www.facebook.com/groups/729158773822355/>
デザイン・編集／ murbo 禁無断転載・複製・転載